

いっぱい悩もう たくさん聴こう

和田 芳子

奨励者紹介[わだ・よしこ]

日本キリスト教団東海教会牧師

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしめです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

(ルカによる福音書 1章 26—38 節)

天使とマリアの長い時間

同志社大学の皆様とご一緒に礼拝を捧げられる恵みを、主に感謝いたします。

私は、今、ご紹介いただいたように日本キリスト教団東海教会の牧師をしています。「東海」というと、東海地方などとても広い地域を思い浮かべられるかもしれませんが。実際のところ、愛知県名古屋市にあります。1925年に名古屋で伝道を始めた初代牧師は、名古屋を拠点に東海道沿線に教会をつくっていったという志をもって、この名前をつけたと聞いています。現在は、ちょっとこの名の荷が重い、小さな教会です。

私は、見るからに年を重ねていますが、牧師を本業にするのは東海教会が初めてで、3年目です。大学生の時に洗礼を受けてから、教会に行ったり行かなかったりを繰り返す、どこにでもいるクリスチャンで、大学卒業後は、公務員として福祉の仕事をしていました。障がい者施設、児童相談所、婦人相談所などで働き、それから牧師になりました。

そういう意味では、今日、説教題にした「いっぱい悩もう たくさん聴こう」とあるとおり、私自身がいっぱい悩んで、神さまにたくさん聞いて牧師になりました。それに、仕事でも、いっぱい悩む人と共に、たくさん関係機関の人や支援者の人の意見を聞きながら、協力しながら、支援をしてきました。

そこで、アドベントを迎え、皆様とご一緒に誰よりもいっぱい悩んで、言葉は少ないですが、たくさん神さまに聞いて、たくさん神さまから答えてもらった人、マリアについて聖書をひも解いていきたいと思いま

す。

先ほどお読みいただいた聖書箇所は、神さまの御子、私たちの主イエスさまが人として生まれるにあたって、とても大切な出来事が書かれています。そこで読むのに、どのくらいの時間がかかったと思いますか。実は測っていたのですが、2分 20 秒でした。私たちは、聖書に書かれていることをそのまま出来事として聞きます。けれども、この天使とマリアの会話、やり取りは、実際にはどのくらいの時間がかかったのでしょうか。2分 20 秒で終わったとは思えません。実は、結構長い時間がかかったのではないかと思います。その費やされた時間を思いながら読んでみたいと思います。

天使は待つ

まず、マリアのところに天使がやって来ます。そして「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と言います。聖書の中で「来て」と書かれている言葉には「入ってくる」という意味があります。当時、天使であろうとだれであろうと、若い女性に直接話しかけるということは一般的に認められていなかったと言われています。ですから、マリアは家族以外の誰かに話しかけられることに慣れていません。そこで天使はマリアの世界に入ってきて、マリアが自分の話しかける相手なのだ、ということを知るようにして、それから「言った」のです。

そのように天使を遣わされた神さまは、マリアが天使の言葉を自分への言葉として受け止めることができるようになるまで、時をもたれました。そして初めて「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と、伝えたのでした。

一方、マリアは目の前にいる天使が話す言葉を聞き、「この言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ」のでした。

マリアはまず、戸惑いました。マリアは、知らない誰かに話しかけられて答えるということに慣れていません。ですから、天使が自分にかけてくれた言葉に「何か返事をしなければならない。そうでなければきっと失礼になる。でも、どんな言葉を返してよいのか分からない」と、そんなことが頭の中をぐるぐるとまわって戸惑っていたのではないのでしょうか。

沈黙は続く

天使への返事が思い浮かばないまま、挨拶への返事のタイミングも失って、時間は過ぎていきます。そしてそのまま「いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ」ということに移っていったのです。

マリアは考え込む中で、思い当たることがあったのではないかと思います。それは「主があなたと共におられる」という言葉です。きっとモーセのことは知っていたでしょう。モーセは、神さまにイスラエルの人たちをエジプトから導き出すように命じられた人です。神さまの命令に従うのをモーセがためらっていると、神さまは「わたしは必ずあなたと共にいる」とおっしゃいました。モーセの後を継いで、神さまが与えてくださったカナンの地に向かうヨシュアにも、神さまは「うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主は共にいる」と言われました。「主が共におられる」という言葉は、何か、とても大変なことを神さまに託されて、それを成し遂げるのが大変で、そのために「共にいる」とおっしゃっているのではないか。だから、なにか大変なことを言われるのではないか。これが的中します。ですから「おめでとう、恵まれた方」

と言われても、ちっとも「おめでとう」の意味が分からないし、何が「恵み」なのか分からない。そのように考え込んでいたと想像できます。そして、その「分からない」ということを言葉で表して伝えるということも慣れていませんから、難しかったと思うのです。

そして、マリアが黙って考え込む様子を見て、天使が次の言葉を伝えようと決心するまでの間にも、長い沈黙の時間が流れていたと考えられます。

やっとひと言

そこで、天使はその長い沈黙の後、もう一度話しかけることにします。「恐れることはない」と言って、そのあと丁寧に、マリアに「恵み」の意味を伝えます。身ごもって男の子を産むこと、その子は偉大な人になること、イスラエルの人々を永遠に導く人になる、ということでした。

マリアにとっては「男性との関係がなくて男の子を産む」ということが、自分の事として、切羽詰まった出来事として迫ってきました。

そしてここでやっと、マリアは初めて天使に対して言葉を発します。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」という言葉です。マリアの初めての言葉は、「男性と性的な関係をもつ」ということに関することでした。

「男性との性的な関係をもつ」ということに関する言葉を、この若いマリアが口にする、言葉にするということは本当は恥ずかしくて、とても勇気のいることだったと思います。このところ、女性の生理についてもっと話していこうよ、という動きがありますが、この2000年前はとてもそんなことは考えられませんでした。初めて会った人に対して口にするということは、本当はみだらなことではないか、と思いながら話した言葉だと思います。

天使の心遣い

けれども天使は、マリアが戸惑い、考え込んでいる間もずっと待ってくれました。そして、何も言えないマリアにもっと分かるように説明をしてくれました。これだけマリアのことを考えて話をしてくれるのならば、そんなちょっと恥ずかしいことも話してもよいのではないかな。今まで天使が話してくれた中で、一番、マリアにとって驚き、不安で、困ったことを、天使は聞いてくれるのではないかな。そのように思って天使に向けられたマリアの言葉ではなかったかと思います。

天使は、マリアの「どうして、男の人を知らずに子どもが生まれるのか」という疑問に丁寧に答えてくれます。それは、聖霊、神さまの霊によってなされることだということ、だから生まれる男の子は「神さまの子どもである」ということです。加えて、天使はエリサベトの話をしします。これまで子どもが生まれず、もう年を取っていて子どもを産める年齢ではなくなってしまったエリサベトに、子どもができるのだと言うのです。

マリアは親戚のエリサベトに子どもが生まれるのだ、あり得ないことが起きるのは自分だけではない、他にも、それも自分にとって身近な人に起きているということを知ります。そして、ここで天使の「恐れることはない」という言葉を受け止めることができたのではないかと思います。

マリアはきっと、子どもが生まれない辛さを、エリサベトを見ていて知っていたと思われます。そのエリサベトに子どもが生まれる。それこそが大きな恵みであると思ったことでしょう。その、エリサベトに与えられ

る恵みと同じ恵みが自分にも与えられるのだと受け止めました。

決意を言葉に

「神にできないことは何一つない」ということは、天使がマリアに伝えたことが、今はただ驚いて、信じられなくて、困ったことだと思うけれども、神さまは必ずそのことを、自分に起こったことを自分にとっての恵みと喜びにしてくれる、ということではないか。神さまは必ずすべてのことを恵みと喜びにできる方だと、受け止めたのではないのでしょうか。

そして、このあとマリアは「わたしは主のはしめです。お言葉どおり、この身になりますように」と答えました。天使に出会った時に何も言えなかったマリアに、天使は考え込む時間を与えてくれました。やっとのことで口にした、若い女性にとって恥ずかしい言葉を、マリアの本当の悩みとして受け止め、真正面から答えてくれました。その上で頼れる同じ立場の人を与えて、不安を軽くするようにしてくれました。マリアは、自分のことを、自分の決意を、このかけた時間によって言葉にすることができたのです。言葉にすることは、自分自身が前を向き、そのことに向かって歩いていく、という一歩です。

このように、神さまはイエスさまを私たちのところに与えてくださるために、とても長い時間をかけました。神さまはゆっくり待って、マリアが「従います」という言葉を自分の口で、言葉で言えるようにしてくださったのです。

暴力が言葉を奪う

最初にお伝えしましたが、私は東海教会の牧師になるまで、福祉の仕事をしていました。最後の仕事、婦人相談所での仕事でした。婦人相談所は、売春防止法によって都道府県に設置され、現在は売春の問題だけではなく女性のさまざまな相談にのる相談機関です。

ここで、私は夫から妻への暴力、いわゆるドメスティック・バイオレンスに傷ついた女性とその子どもたちや、さまざまな理由で生活の場を失い、どこにも行き場のない女性たちの支援を、他の自治体、関係機関と一緒に行いました。

その中で出会う女性たちの多くが、自分が分からないということを人に言葉にして聞くことができない、自分の言いたいことを言葉にして人に言えない、という人たちでした。そのために仕事で分からないことがあるのに聞けず、職場で嫌なことがあっても、嫌だということを周りの人に伝えられないため、孤立して仕事をやめてしまいます。仕事をやめることを繰り返しているうちに、仕事なくなり、お金がなくなり、住むところがなくなってしまった女性たちがいました。

どうして聞けず、言えないのでしょうか。中には子どもの時に、親に聞いても教えてもらえなかったという経験をしていました。何か言ってそれが親の気に食わないことだったら殴られるという経験をしていた人もいます。嫌だという言葉をついたら、「嫌なら出て行け」と言われてしまうという経験をした人もいました。中には、夫からいつも否定的な態度をとられ、話すことをあきらめてしまった女性もいました。その人たちは、もう何を言っても無駄だとか、どうせ私の話なんかだれも聞いてくれない、と心の中に言葉を閉じ込めて黙りました。そして、辛い思いを抱えているのに、そのことを人に伝えることができず、助けてほしい、という言葉も言えなくなってしまった人たちでした。

聞かれることで言葉になる

言葉は、聞いてもらえなければ言葉になりません。答えてもらえなければ聞く言葉を失います。

私は女性たちの支援の中で、自分の思いを言葉にすることができるようになるには、聞いてくれる、聞いて批判しない、時間をかけてそのままの言葉を受け止めてくれる相手が必要なのだとことを知りました。まずその人に話してよいのだという、信頼感をもってもらうことが必要だということを知りました。そして、心に浮かぶこと、頭の中に巡ることを言葉にするには、とても時間がかかります。ましてや相手に通じるように、伝えられる言葉になるには、もっともっと長い時間がかかります。聞いてもらえたという体験をし、それが自信となってまた自分の言葉を考え伝えていく、その積み重ねが必要なのだと知りました。

神さまが聞いてくださる

マリアは若い女性で、当時の習慣から人に話しかけられ、話をする経験の乏しい人でした。そこに天使が現れて、まずマリアの目線に立ち、マリアと話す人だ、マリアの話を聞く者だという信頼関係をつくってくれました。そしてマリアの戸惑いや、考え込む言葉にならない時間を、待ってくれました。そこから、マリアに言葉が生まれ、天使に言葉を投げかけ、受け止められました。その積み重ねをとおして、「お言葉どおり、この身になりますように」という神さまに従う決意の言葉を、マリアは自分の口で、自分の言葉として話すことができたのでした。

神さまこそが聞いてくださる、受け止めてくださる方です。時間をかけて、悩みにつきあい、言葉が出てくるのを待ってくださいます。そうして私たちは、言葉によって、自分自身に決意と自信をもつことができ、言葉によって周りに伝えて、共に歩む仲間を与えられるのです。

天使は、「神にできないことは何一つない」と最後に言いました。これは、人間にとってありえないことを神さまができる、ということではありません。

それは、神さまが私たちの一人ひとりのことをとことん大切に思ってください、そのために神さまがしてくださることに、「できないことは何一つない」という意味です。神さまは私たち一人ひとりを愛してくださり、そのために神さまのすべてをかけて、私たちのために手を尽くしてくださるのです。そのことに「できないことは何一つない」ということなのです。

それは、イエスさまを私たちに送ってくださった、ということに表されています。神さまの御子としてイエスさまが人となられ、人が生きている間の苦しみや辛さ、喜びもすべて経験し、知る方となってくださいました。そして当時最も苦しいと言われた十字架につけられました。イエスさまご自身が生きておられた間、苦しんでいる人、困っている人にご自分から声をかけ、その人たちの言葉を聞いてくださいました。そして、弟子たちの疑問に丁寧に答えた方でした。イエスさまの復活を身に受けた弟子たちは、この復活後、イエスさまを伝える人になります。イエスさまに自分たちの疑問を、言葉を聞いてもらった弟子たちは、今度は自分の言葉で、自分自身がイエスさまに従う者であることを宣言することができました。そして自分たちの言葉でイエスさまを伝える人になったのでした。「共におられる」ことを、モーセやヨシュアのように、大変なことを乗り越えるためではなく、常に喜びの中を歩むこととしてくださったのです。

悩みを祈りへ

いっぱい悩んでください。悩む時間を神さまが与えてくださいます。

悩んでいることをたくさん神さまに話して、神さまに聞いてもらってください。今私たちは、なかなかお互いに声に出して話すということが難しい時を過ごしています。ですから、祈りを声に出して言葉にしてください。神さまへの祈りの言葉は自分に向けられて、自分自身が生きる勇気となります。自分自身が生きる道筋となります。そして、祈りの言葉を他の人と一緒に分かち合う時、その言葉によって共に歩む仲間が与えられます。

「おめでとう、恵まれた方、主があなたと共におられる」という言葉は、マリアだけでなく、私たちへの神さまからの言葉です。いっぱい悩んでたくさん聴く、このことに答えてくださり、私たちと共に生きる方として、イエスさまはこの世界に来てくださいました。「おめでとう」は「喜びなさい」という呼びかけです。神さまの御子として、ずっと私たちと共にいてくださるイエスさまを、喜びをもってお迎えしたいと思います。

2021年12月1日 今出川水曜チャペル・アワー「アドベント礼拝奨励」記録